

新型コロナの保険料減免

国民健康保険・後期高齢者医療保険・介護保険が減免されます

65歳以上の方は、「介護保険料」の減免申請を



64歳以下の方は国保と合わせて減免になります

65歳以上の方は「減免申請」が必要

新型コロナ感染症の影響で収入が減少した人（前年と比べて3割以上の減収）を対象に、医療保険・介護保険の減免が行われています。

医療保険は、「国民健康保険」または「後期高齢者医療保険」です。加入している保険の減免申請を行ってください。

また、「介護保険」も減免となりますが、64歳以下の場合は国民健康保険の介護分として保険料が徴収されているので、国保の減免を申請すれば、介護保険料分も自動的に減免となります。しかし、65歳以上の方は介護保険料が別途徴収されているので、介護保険料についても減免の申請が必要となります。同様の申請方法です。

申請書が必要な方・相談したい方は、お電話を！

右の連絡先に電話してください。わからない点を聞いたり、申請を希望の方は申請書送付の依頼ができます。減免申請は、郵送されてきた申請書に必要な事項を記入し、添付書類を添え、郵送で提出できます。

<連絡先>

【市役所介護保険課】	☎328-2347
【中央区役所福祉課】	☎328-2311
【東区役所福祉課】	☎367-9127
【西区役所福祉課】	☎329-5403
【南区役所福祉課】	☎357-4129
【北区役所福祉課】	☎272-1118

新型コロナ感染症急増、対策の強化を！

新型コロナ感染症の感染が急速に拡大しています。7月27日現在、全国の感染者は3万1,915人となり、死者も1000人を超えています。熊本でも、県下の感染者数は113人となり、うち熊本市の感染者は56人です。

特に、熊本市では27日の新規感染者数が最多の6人となり、警戒レベルが「3」に引き上げられました。検査数の拡充、病床確保のための医療機関への支援強化はじめ、感染拡大防止策の強化が求められます。

【控室から】 豪雨災害へ被災地への支援

なすまどか



球磨川の氾濫で甚大な被害を受けた県南地域。日本共産党の支援センターがすぐに設置され、私も現地に駆け付けました。電線に流木が絡まりつく様子や橋げたがポッキリと折れなくなっている様子が目に飛び込み、被害の大きさに息をのみました。

家財道具の運び出しに何った高齢のご夫婦は、あつという間に増えた水かさには逃げることができず、椅子の上に立ち首元まで水につかりながら耐え忍んだ様子を話してくれました。生活に必要なすべてのものを一瞬で失い、今後の生活に不安を抱えておられました。

また、背丈ほどの浸水被害にあった車両整備工場では、車を持ち上げるリフトや修理機材など道具がすべてダメになったほか、預かっていた車なども水没してしまい、これからの生活や営業がどうなるのか先行きが見えない現状に肩を落としておられました。

現地に足を運び、生活や生業再建、災害廃棄物収集の課題、避難生活の中でのコロナ感染対策、再び発生するかもしれない水害への対応など、様々な課題があることを実感しました。被災された方々が、一日も早く安心して生活を取り戻せるよう、県議や国会議員とも連携し、私も力を尽くす決意です。

日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階
発行：日本共産党熊本市議団
上野みえこ なすまどか

NO. 1197
2020年8月2日号
電話 328-2656
FAX 359-5047



メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

HP：共産党 熊本市議団

検索

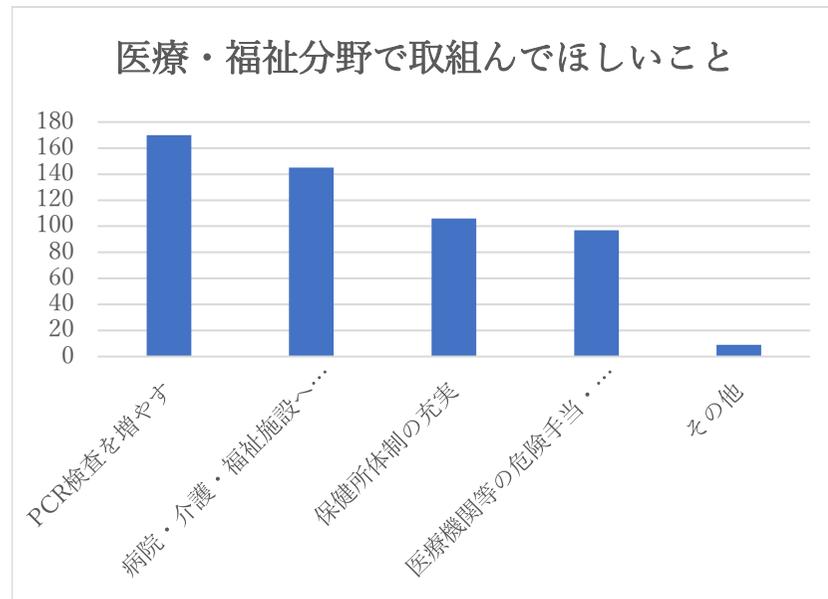


新型コロナ、再び感染拡大へ・・・市民アンケートへ寄せられた声・・・

市民の一番の願いは、「PCR検査等の拡充」



市民の声に応え、「検査数を増やす」ことは急務



党市議団の「新型コロナ感染症に関する市民アンケート」では、「医療・福祉に望むこと」で「PCR検査を増やす」という声が一番多く寄せられました。市民の声に応え、検査の拡充を急ぐべきです。

<医療・介護・福祉の面で>

- ・ワクチンができて、みんなが打てたらいいと思う。
- ・今後は、ウイルス対策の専門機関がほしい。
- ・無症状者もいるので、PCRの全数検査を行ってほしい。
- ・熱があり病院でレントゲンを撮っても、肺炎がないという理由でPCR検査を受けることができなかった。
- ・相談窓口を増やして、どこに行けばよいか、はっきりさせてほしい。
- ・自粛時でも働く人に危険手当を出してほしい。
- ・アベノマスクより、医療材料を安定的に供給してほしい。
- ・体を張り頑張っている医療・介護施設へ経済面・物資面で大きな支援を。

<子どもに関すること>

- ・自粛による保育園の休園では、子どもも親もストレスがたまった。
- ・長期間の休校では、学習の遅れを心配する。
- ・長期の休校では、家庭での食費・光熱費が増え、経済的に負担です。
- ・子育て世帯への給付を拡充してほしい。
- ・休校による子どものストレス、体力・学力を心配。第2波が心配。
- ・コロナで仕事が減って、教育費や子育ての費用が負担になっている。
- ・現状では学校現場の3密回避は難しいと思われる。具体策が必要。
- ・母子家庭で、生活に困窮している。
- ・子どもファーストで問題を解決してほしい。

寄せられた声を紹介します

<仕事や事業のこと>

- ・いろいろなことをどこに相談していいかわからない。
- ・本当に必要な人に支援が渡らず、倒産増大による経済低下を懸念する。
- ・事業者への支援は、書類を簡素化して、スピーディに出してほしい。
- ・雇用を守り、生活に困っている人たちを助けてほしい。そうしないと自殺者が増えると思う。
- ・景気を上げるためには、増税は逆行、消費税は5%にしてほしい。
- ・相談窓口への電話が繋がらない。
- ・新規営業ができず、リピータで食い繋ぐ。平常に戻ってほしい。
- ・給付金10万円はありがたいが、焼け石に水。第2波が来たら破綻。
- ・経済的なサポートは、第2弾・第3弾をやってほしい。
- ・コロナ前に失業して、仕事が見つからない。



第2波が懸念される今、市民の不安に応える国や行政の対応が求められます。

日本共産党も、「新型コロナ Q&A (第4弾)」を作成しました。HPで紹介しています。ご活用を！

